

# JARL横須賀クラブ会報

## Voice Of Yokosuka

NO. 218 創立50周年 記念号



Yokosuka Kanagawa  
**JA1YBQ**

JARL Yokosuka Club

Confirming Our QSO

DATE	TIME	TO RADIO	RST	FREQ	MODE	QSL
1972	JST:GMT	77 F1E	59	2	SSB	TRX

Reg. HT-2015 Input 20 W. Act. JST 70%  
Ranks: 1st Lt. (Sgt.) (Japan) (TX FB QSO)

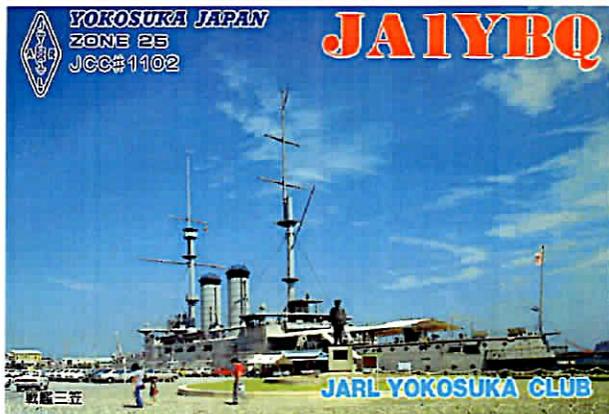
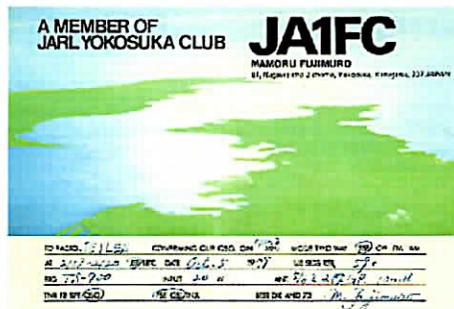
OP. T. SGT. (Japan)

c/o Ohsumi, 2-7, Uenomachi, Yokosuka City, Kanagawa 238 Japan

TO RADIO JA1-7190  
Confirming OUR  
QSO. J.S. Mc 80%  
At 11:52:22 JST/447  
on 2/21 1962.  
He Sigs RST. 59.  
RX HT-2015 TX 80%  
Mod. 600W Input 40%  
ANT. 5m High  
Ranks. 1st Lt. (Sgt.)  
TX FB 80%  
TNX FB QSL. PSE. QSE. w/d THIRLP 78.



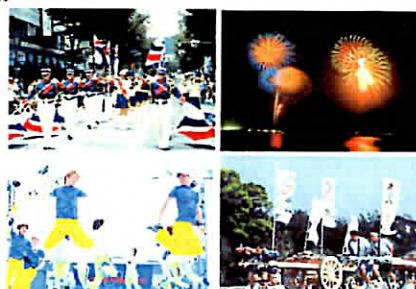
**JA1YBQ**



JARL Yokosuka Club  
the 50th anniversary since Dec. 1953

**JA1YBQ**

JCC:1102 GL:PM95



JARL横須賀クラブ50周年記念QSL Member of JA1YBQ

本年は、横須賀クラブも創設50周年を迎え、各種記念行事を開催しました。昭和28年(1953)に第一号を発行以来、218号まで発行出来ました。

—JA1YBQ JARL横須賀クラブ—

JARL登録地域クラブ 11-1-2

7 DECEMBER 2003



— 目 次 —

VOY218号 創立50周年記念号

第一部 創立50周年記念号

御挨拶 JA1ITN JA1AN JA1HB JJ1HKS JE1YJL ————— 1~7

投稿記事 JA1AFY JA1AOW JA1BBN JA1BCD JA1BHZ — 8~15  
JA1BNW JA1BNY JA1CAJ JA1EFK JA1EHC — 16~29  
JA1FXF JA1GOR JA1HAK JA1II JA1JAO — 30~42  
JA1JKN JA1LUM JA1LVB JA1LVP JA1NUJ — 43~47  
JA1NVF JA1OZJ JA1PHZ JA5VE JH1OHZ JE1LGY — 48~60

第二部 創立50周年記念号

歴 史 ————— 61~118  
あの頃みんな若かった ————— 119~127  
名 簿 ————— 128~140  
免 許 状 ————— 141~142

第三部 創立50周年記念号

QSLカード集 ————— 143~149

第四部 VOY218号

行事予定表 ————— 150  
活動報告 ————— 151~155  
お知らせ ————— 155  
その他 ————— 156~157  
編集後記 ————— 158

【50周年記念誌プロジェクト メンバー】

JA1ITN 若林, JA1DSW 浜田, JA1FXF 桑原, JE1LES 谷口



# JARL横須賀クラブ創立50周年にあたり

JARL横須賀クラブ会長

JA1ITN 若林 美雄



JARL横須賀クラブ創立50周年にあたり、御挨拶を申し上げます。

戦後のアマチュア無線再開されて間もなく、昭和28年に横須賀在住の諸先輩により横須賀クラブが結成され、それ以後会員の皆様方のアマチュア無線に対する情熱と研究心に支えられながら、この度、目出度く50周年を迎えられたことを、クラブ員の皆様と共に心からお慶び申し上げます。

さて、振り返ってみますと取り組みの早かった「非常通信訓練」は、現在、横須賀市非常通信連絡実行協議会にクラブ員の方々が加入して継続、活躍されております。

オンエアーミーティングは、当初の日付、時間の変更があったものの、会員相互の意志疎通とお知らせに効果を上げております。

平成9年(1997)には、有志の方々の多大なるご尽力により武山にアンテナを上げ、コンテストで好成績を残し、記念局(8J1ITU世界電気通信日特別記念局、8M1C/1ワールドカップ記念局、8J1YKFよこすか開国祭記念特別局(11月末まで))運用に、そのロケーションのすばらしさのお陰で国内はもとより、世界中に記念QSLカードをお届けしております。

平成6年(1994)より分科会(コンテスト部会、技術部会、レクリエーション部会、YL部会、武山部会)を設け、各年間行事計画に基づき多くのクラブ員の参加を得ております。重ねて、各地区連絡員を決めて、各地区毎にお花見、アイボールミーティングなどクラブ員相互の親睦を深めております。

中でも毎年9月に行われる「バーベキュー大会」では、60名を越える家族会員を含め最大のイベントになっております。今年からYL部会の協力を得て、各種ゲームを行いますます楽しい内容になっております。

平成8年(1996)から、アマチュア無線の底辺拡大をはかるべく、第四級アマチュア無線技士養成講習会を開催しております。さらに、合格者の方々を対象にアマチュア無線の楽しみ方等をお話するために、フローアップ講習会を開催しております。

近年、携帯電話、インターネット等のめざましい普及によりアマチュア無線を楽しむ人達が増えずむしろ下降しつつありますが、パソコンを使ったハムログ(QSLバンクを含む)や、RTTY、PSK31、SSTV、パケット、インターネットを使ったQSOをはじめDX情報入手等、また、昔のAM時代からSSBに変わったように、通信のデジタル化の研究が始まっていて、アマチュア無線の楽しみ方の選択肢が広がっておりますので、今後ともクラブ員各局にPRしてまいります。

半世紀にわたる横須賀クラブの運営に惜しみなくご協力をいただいた諸先輩の方々、および現在の会員の方々に厚く御礼申し上げます。

さらに、益々の発展と存続を目指してまいります。有り難う御座いました。

## JARL 横須賀クラブの50周年を祝って

(社) 日本アマチュア無線連盟  
会長 JA1AN 原 昌三



このたび、JARL 横須賀クラブが50周年を迎えられましたことを、心からお祝い申し上げます。また、半世紀にわたりクラブの運営に努力されてこられましたメンバー各位に対し敬意を表します。そして永年 JARL の諸活動にご協力いただいて参りましたことにつきましても、この機会に際し厚くお礼を申し上げます。

皆様方のクラブが結成されてから今日までの間に、わが国のアマチュア無線活動はさまざまな発展を遂げてまいりました。とくに技術や運用については、無線機は手作りの時代から、最新の電子技術を駆使した高性能で多機能なものが誰にでも使える交信を行える時代になりました。また、衛星、データ、画像、レピータなどさまざまな通信方式を楽しんだり、国際化などにより外国での運用も盛んになってきました。

このような、発展はこれまで皆様方をはじめとする熱心なアマチュア無線家の方々が、新しいことに取り組み、それが普及するよう努力してきた結果であり、今後ともお互い常にいろいろなことに積極的にチャレンジして、さらに技術や運用の可能性を広げて行きたいものと存じます。

ところで今年は、ご存知のとおり世界無線通信会議(WRC-03)がジュネーブで開催され、われわれが念願してきた7MHzの拡大も100KHzの追加が決まり、2009年3月には実現することになりました。また、アマチュア無線へのデジタル通信方式の導入も、制度改正などにより来年1月から本格的にスタートすることになりました。

これら新しい動きもありますので、どうか皆様方もこれからは新しいことに取り組んで、アマチュア無線にいつもの活力を呼び込んでいただきたいと思います。

最後になりますが、伝統ある皆様のJARL 横須賀クラブがこれからさらに発展されますこと、また、メンバーご各位のますますのご健勝とご活躍を祈念いたし、お祝いの言葉とさせていただきます。

## ■■ ご挨拶 ■■

社団法人日本アマチュア無線連盟

神奈川県支部長

J A 1 H B 浅川 悟

ペリー来航から150年

——21世紀の光は、よこすかから「進・時・代」を創生していく——

——よこすか開国祭と時を同じくしてJARL横須賀クラブも50周年を迎え——

——21世紀の光は、よこすかから「進・時・代」を創生していくのでしょうか——

「JARL横須賀クラブ創設50周年記念」お目出度うございます、心よりお祝いを申し上げます。

「継続は力なり」とか、短期間で無くなるクラブの多い中であって、半世紀に亘り維持、継続、ご発展を続けられたことに敬意を表します。

JARL横須賀クラブは、何といても大勢の会員を擁し、DX、国内QSO、コンテスト、新技術に対する取り組み、青少年の育成、非常通信への取り組み、会員相互の親睦への配慮などなど、あらゆる面でのご活躍を、お送り戴く立派なクラブ報から伺い知る事が出来ます。これらは歴代会長様始めクラブ員の皆様の熱意の継続の賜と言っても過言ではないでしょう。

小生にとって横須賀は、JARL横須賀クラブをはじめ近隣クラブの皆様にお世話になって開催した平成12年の横須賀市立総合福祉会館での神奈川県支部大会、平成13年の電気通信日特別記念局8J1ITUの活発な運用が特に印象深く、懐かしく思い出される地です。

ここで話は少し変わりますが、JARLの本年度のビッグニュースは、WRC-03の会議に於いて2009年（大分先ですね）7MHzのバンド幅拡大が決まった事ではないでしょうか。

皆様の益々のご活躍を期待いたします。

最後に、JARL横須賀クラブの会員の皆様のご健勝と今後の益々のご活躍とご発展をご祈念申し上げ、お祝いの言葉とさせて戴きます。



## JARL横須賀クラブ 各位

前支部長 JJ1HKS 川島 健太郎  
創設50周年、誠におめでとうございます、心より喜び申し上げます。

諸先輩方の尽力で半世紀に渡り活動されて来られた事に、驚くと共に敬意と感謝を申し上げます。

### 昭和28年テレビジョン放送開始

横須賀クラブが開設された昭和28年、当時はNHK TVが開局、NTVもその後放送が始まりました。横浜駅前には街頭TVが設置され、市民が群がって見ていました。特に力道山の米国選手をやっつけるプロレスは大変な人気でした。

戦後の復興に街は活気に湧いていましたが、就職難も今以上に大変でした。就職列車で朝の上野駅は中学生で溢れ、地下道や街には靴磨きや、傷い軍人の痛々しい姿でのアコーディオンの響きが今でも想い浮かびます。

### 敗戦から立ち直って

私の住んでおります座間市には戦前陸軍士官学校があった、のちにCAMP ZAMAになり、横須賀と同様に米軍の基地になっていました。巷には横文字の看板と米軍相手の女性が生活のために、体をはって身を売っていました。当時はパンパンなどと言われ、正に敗戦国の一途で、本当にご苦労された方もおられた事でしょう。もう健在の方も少なくなってきたことと思います。

ここまで築き上げ、先進国となった日本、休みも無く働き続けた諸先輩方の頑張りが今日の日本です。このような状況下の中で無線技術の発展とアマチュア無線を研究され、その意志を継承され邁進されて来られた、貴クラブの皆様の無線に対する研究心、思いやり、気配り、優しさが有ったからと存じます。

自分勝手に我慢が出来ない人の多いこんにち、クラブを存続させる難しさを感じますが、横須賀クラブには、人の和と言う、良いクラブ風が、きっと在ると存じます。

### ラジオ少年が支えた電機産業

貴クラブの創設当時の電気街は神田駅から始まって万世橋に伸びていました。

趣味産業も始まったばかりで完成品は少なく、無線機、管球AMP、ラジオ、テレビ、テープレコーダー等、自作が主で、高周波を扱う無線はキングオブホビーと言われ、作る楽しみも沢山ありました。この頃のラジオ少年は殆どが電気関係に就職し、日本の電機産業を世界のトップ産業にした人達と言っても過言ではないと思います。

私は満州から引き揚げ、貧乏で何も買えない夜学生でもっぱら生活の為にラジオやテレビを作り、売って生活の足しにしていました。電気に興味を持った私たちラジオ少年にとって、子供の科学は本当に楽しみの雑誌でした。

ラジオ技術、電波科学、無線と実験も理解が出来るようになってからよく見ました。

私も昭和30年に大手電機会社に就職でき自分の為、会社の為に働き蜂と言われるほど、休まず働きました。

そんな中でも頼まれると、東映無線、フルタカ無線、トヨムラ等でキットを買って今では考えられない、重く大きい木箱の14吋TVを電車で持ち帰り、自分では買えないのでも徹夜で組み2週間ほど調整と称して家で見る事ができました。

プロレスの時間には村中の人達が見に来ていました。

当時覚えたオッシロやSG、スイブG、バルボル等の使う技術が仕事で大変役に立ちました。

その頃、私は黒四発電所の工事、東京タワー等の仕事が忙しく趣味の電気いじりはしばらく出来ませんでした。

### アマチュア無線開局

子供が無線の免許をとれる年代になり、HAMでもやってみようかと、丁度朝霧高原でハムペンションが開催され見学に行き、それを機会に145MHzのTR7200で開局しました。周波数は水晶の4チャンネルでした。

その後子供達も免許をとり、HFや50MHzのトランシーバーを購入し、たまの休日には山へ移動運用に行き自然と交信を楽しみました。

無線は初心者でしたし、仲間と技術交換もしたいな、と思ひ地域クラブJR1YAY座間クラブに入会させていただき楽しい仲間と共に現在に至っています。

### 神奈川県支部長就任

JA1AYC松本さんが支部長の時、座間クラブの代表として、クラブ代表者会議に出席し、幹事に任命され、4年程お手伝いを致しました。

その後松本さんが支部長8年になり交代の話で、私が支部長に推薦されました。

初めての支部大会は横須賀クラブのご支援で衣笠の、はまゆう会館で開催、アトラクションでは関東自動車社員によるハワイアン演奏をして戴きました。

その後各クラブのご支援で8年間支部長をやらせて頂きました。

この8年間はハム人口が最大に増加し神奈川県支部の会員が15000人と全国最大の組織となりました。

楽しいハム創りにいろいろなイベントを行い、沢山の会員が参加をして頂きました。

当時の状況をモービルハム(8万部発行)が毎回取材に来て報道してくれました。



## 中国のアマチュア無線を支援

その関係も有って日中正常化20周年記念には天津市人民政府と中学校4校に無線局を創設すると電波実験社のお話と誘いで行きました。

私はBY3AB局を担当し、各局が完成し、盛大なレセプションが行われました。

当時中国では外国のラジオを聞くだけでも厳しく取り締まり、ハムバンドでは中国に入って来る電波に対してジャミングと言う妨害電波を発射していました。

私達担当の年配の通訳がジャミングの発信所や日本語を聞くための闇アンテナの設置の仕方について内緒で聞かれました。私たちの交信は全て録音されていました。勿論、現在はそんなことはありません。

アマチュア無線が電波技術の発展の基礎にと、大変な完成式典にも現れ、期待がされている事を感じられました。

レセプションには日本から国交時の外務大臣婦人園田先生や北京から秦主席が来られ、その席上で秦主席に東北地方にも無線局をとのお話をしましたところ、どこが良いかとのお話で、とっさに黒龍江省ハルピン（内心生まれ故郷と思い）と答えてしまった。

その後半年ほどして黒龍江省政府から支援願いたい旨の書簡が届き、早速準備、一人では出来ませんので、友人JA1QGS関口さん、JJ1JGI西山さんに支援をお願いしました。

無線機は戦略物資の関係と中国税関の関係で書類の作成が複雑でしたが、輸出入関係に超詳しい関口さん（現フランス三菱支社長）が作成、一発でOKとなりました。

父が神奈川県第一次移民として昭和8年にハルピンから5百キロほどのチャムスと言う所に入植しました。

敗戦後は悲惨極まりない地獄となり、十万人も死んだ開拓団、私の母も小さい妹二人を抱え、力つきて引き上げ時神京（現長春市）で三人とも逝ってしまいました。

そんな思いから私の希望で、引き上げ時の想いでと車窓から手を併せたく、千キロの列車の旅をしながら、大連からハルピンに入りました。

引き上げ時を思うと無事に帰国できるか内心心配でしたが、大連に出迎えてお世話してくださった、李先生、前、人民代（国会議員）で日本語は日本人より達者で、いたれりつくせりのもてなしで、不安もなくなりました。

東北（旧満州地区）3省に初めてのアマチュア無線局でも有りますし、-35度にもなる厳寒地、耐えられるアンテナや同軸、慎重に工事し、初のBY2AA局が完成しました。

開局式には省各地から関係者100名と新聞社が出席され東北地区初めてのアマチュア無線局で上海はじめ中国内各地や世界との交信に感動され、翌日の新聞には私達の名前と共に報道記事が掲載されていました。



CWの名手  
李さんと



その後ハルピン工業大学創立75周年記念に横須賀クラブのJA1ITN若林さんの支援を得てBY2HITとその後、ハルピン青年活動センターにBY2AB局の創設支援を実施しました。



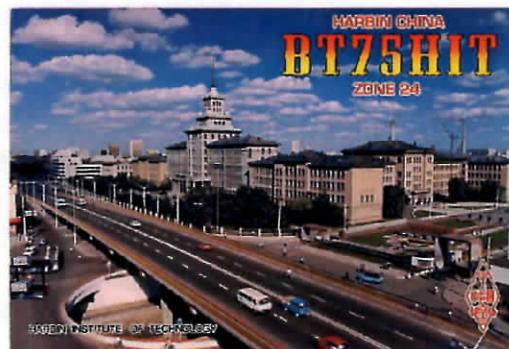
空港にお出迎え



日本軍731部隊の細菌兵器工場跡



BY2HITハルピン工業大学の皆さんと



中国にも連盟（CRSA）ができ会員も1万5千人に成ったようですが、携帯電話の急速な発展で増加は期待できないとの事、昨年辺りからHAMフェアに中国から学生も来なくなりました。

私の訪中のきっかけを創って下さったモービルHAMの編集長はじめ、多くのご支援して頂いた方々に感謝申し上げます。

携帯電話の普及でHAM人口が激減し、多くのHAM関係の本やモービルHAMも廃刊になり残念です。

MHの編集長とはベトナム近くの南寧鉄道管理局BY7QNR、桂林少年宮、上海国際SSTVシンポジウム等一緒させて頂きました。

#### ますますのご発展を

湘南海博や横浜博覧会8J1YES、黒船来航150周年記念局8J1YKF等も積極的に活動され50年に渡り多くの思い出や苦労談議もあろうかと存じますが、機会がありましたらお話をお聴かせいただきたく存じます。

学ぶ人生、働く人生、楽しむ人生、と言う様な事で、私も最後の人生になりました。

好きなアマチュア無線、オーディオ、旅、ドライブ、写真などを楽しみながら皆様と共にエンジョイして行きたいと思っております。

横須賀クラブ50周年の記念すべき年ではありますが、アマチュア無線の発展に多大な貢献と尽力されました、初代支部長でありましたJA1CMS阿部様、2代目のJA1AYC松本様が今年、ご逝去され非常に残念であります。

お二人のご冥福をお祈り申し上げますと共に、末永く皆様の発展とご活躍をご祈念申し上げ、お祝いのメッセージとさせていただきます。



JA1AA 庄野OM



HAMオペレーター講座 in ナホトカ



ADRF 大会